

読み聞かせ、開催いたしました

2018年8月17日(金) 担当：だいず、よもぎ、ライム、ナユタ

だいず：こんにちは。暑さが少しずつ落ち着いてきましたね

よもぎ：しもだて美術館では8月19日に、安野光雅絵本読み聞かせを開催致しました!

ライム：朗読しましたのは、絵本「ガリバー旅行記」です。

ナユタ：読み聞かせというと、お客様の前で絵本を開いて行うことが多いですが、原画が、展示してある今回は、お客様に原画をご覧いただきながら、その隣で朗読をするという方法で行いました。



だいず：ご参加くださったお客様、ご協力くださった筑西市立中央図書館の皆様、
誠にありがとうございました!

ライム：読み聞かせの後、お客様に探していただきましたが、「ガリバー旅行記」の絵の中には、文章を担当された作家の井上ひさし先生に所々に隠れています。

よもぎ：井上先生と言えば、お子様向けの作品ですと、「ひょっこりひょうたん島」が有名でしょうか?

ナユタ：安野先生は、井上先生の劇団、こまつ座の上演告知ポスターを描いていたこともあるんですねー。

だいず：遅筆の井上先生とは反対に、安野先生は描くのが早くて、台本が終わらない井上先生と電話で相談して想像で描く、なんてこともあったそうで…。

よもぎ：でも最終的に、台本の内容とポスターがぴったりだったというから驚きですよ…。

ナユタ：すごく信頼し合ってたんだらうな…

ライム：井上先生は丸眼鏡がトレードマークです。どこに隠れているのか探してみてもいいですね！

だいつ：9月8日（土）には「歌の風景」－絵本原画の前で一緒に歌いましょう－を開催します

よもぎ：NHK BSで歌のおねえさんを担当された、川澄歌織さんをお迎えします。
お気軽にご来館下さいね

安野展後期、開催中です

2018年8月17日(金)

担当：たちみみ、よもぎ、ドレミ、ペコ

よもぎ：こんにちは。そろそろ真夏のピークを超える頃でしょうか？

ペコ：8月に入りまして、しもだて美術館では「やさしさあふれる 安野光雅の絵画展」の後期展が11日から始まりました！

たちみみ：後期は絵本の世界と題し「シンデレラ」「ガリバー旅行記」「歌の風景」「空想工房の絵本」の原画を中心に展示しています。

ドレミ：展示室に入って最初の作品は、絵本「シンデレラ」の原画です。



シンデレラ©空想工房

ドレミ：展示室にならぶ「シンデレラ」の原画を御覧になって、勘の良い方々はお気づきでしょうか？

ペコ：シンデレラがお城の舞踏会へ行けるようにと魔法をかけてくれる魔法使いが、その魔法をかける場面以外にも登場しているんですよ！

よもぎ：かくれんぼをするかのように、こっそりと魔法使いがシンデレラをやさしく見守っています。

たちみみ：魔法使いがどこに居るか、探してみてくださいね！

ドレミ：8月19日には、筑西市立図書館にご協力いただき、安野光雅絵本読み聞かせを開催します。

ペコ：朗読する絵本は「ガリバー旅行記」。原画の前が会場です。

よもぎ：絵本の読み聞かせは、大人の方のみでのご参加も大歓迎です。

たちみみ：尚、8月19日は家庭の日です。高校生以下のお子様連れのご家族は無料で入館できます。この機会に是非、お子様とご一緒にご来館ください。

ドレミ：お待ちしております！

御所に咲く花々

2018年7月29日(金)

担当：だいず、ライム、さつまいも、
なゆた

さつまいも：こんにちは。7月もうすぐ終わりですね。

ライム：しもだ美術館では、「やさしさあふれる 安野光雅の絵画展」が開催中です。

だいず：只今、展示しておりますのは、「御所の花」。御所のお庭というところ、どのような場所をイメージされますか？

さつまいも：すごい貴重な植物を育てていそう…？

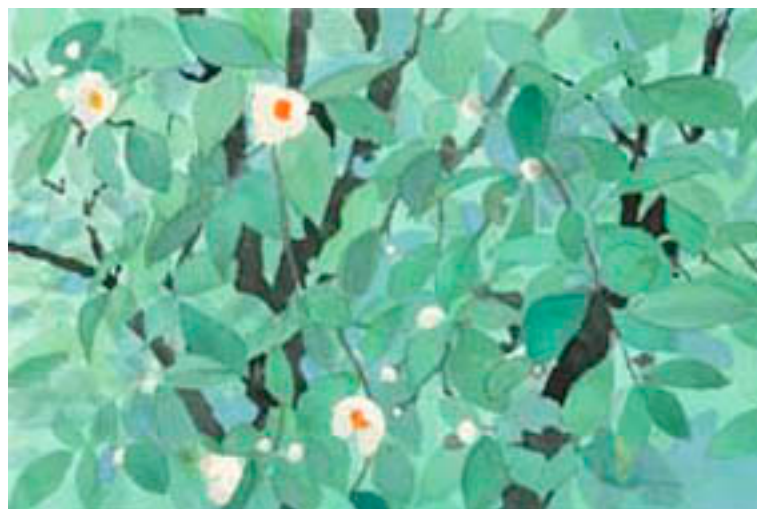
ライム：雑草ひとつ生えてないとか…？

なゆた：そうイメージしがちですが、お手入れは必要最小限、武蔵野の自然を戻すことを意識してできるだけ手をかけない形の管理が行われているそうです。

ライム：私たちの生活範囲で目にする植物も、意外と多く描かれているんですねー

さつまいも：ツクシ、ナノハナ、カラスノエンドウ、ノビル、ツユクサ、ススキ…野原の草花も、結構ありますよね。

だいず：そういえば、よく散歩しに行く公園で、6月半ばにナツツバキが咲いてましたよ。



「御所の花」ナツツバキ©空想工房

なゆた：私は五月ごろに地元の植物園に行ったら、エンプレスミチコに遭遇しました…。



「御所の花」 エンプレスミチコ©空想工房

ナユタ：安野展が始まってからというもの、散歩中についつい描かれている植物がないか探してしまいます…。

さつまいも：熱中症に気をつけて散歩してくださいよー

ライム：「御所の花 天皇皇后両陛下のお庭を彩る草花を描く」は8月8日までです。

だいず：後期は「絵本の世界 シンデレラ、ガリバー旅行記、歌の風景、空想工房の絵本」が8月11日からはじまります！

ナユタ：まだ少し先ですが、8月19日には安野光雅絵本読み聞かせ、9月8日には「歌の風景」、-絵本原画の前で一緒に歌いましょう、というイベントをご用意しております。

だいず：是非、お子様と一緒にご来館下さいね。

安野展、開催中です／14日のイベント終了致しました

2018年7月20日(金)

担当：ドレミ、ライム、ペコ、だいず

ドレミ：こんにちは。短い梅雨が明けて、毎日暑いですねです
ね…

ライム：熱中症や夏バテにお気をつけてお過ごしください
ね！

ペコ：しもだて美術館では、7月7日より「やさしさあふれる 安野光雅の絵画展」が始まりました

だいず：只今、開催しておりますのは、前期「御所の花 天皇皇后両陛下のお庭を彩る草花を描く」。吹上御所の草花を描いた130点の水彩画を展示しております。

ドレミ：14日には、野草原種愛好家の菊池隆次さんがギャラリートークをしてくださいました。

ペコ：菊池さんには、皇居の植物のお話をさせていただきました。



だいず：例えば展示室に入ってすぐの絵、「マンサク」は御所の周辺のあちらこちらに生えているそうですよ。

ドレミ：また、同じマンサクでも、トキワマンサクという垣根によく使われる種類は剪定すると花が咲きにくくなるのだとか…

だいず：安野先生が描いた御所の花、全作品をそれぞれよく見てみると、作品によって様々な描き方をしているのに気づきます。

ドレミ：安野先生も、そうした植物の個性を描き分けているのでしょうか。

ライム：当館の学芸員は、「天皇皇后両陛下の草花を慈しむ心という、見えないものまで描いている」と言っています。

ペコ：この作品たちを関東で見れるのはあとわずか！

だいず：しもだて美術館では、皇居の地図や植物の説明など、工夫をこらした展示をしています。

ドレミ：作品の写真は撮れないので、みな様ぜひこの機会に本物を見にいらして下さい。

9日10日イベント開催しました／茨城のうつくしい伝統工芸品4

2018年6月17日(日)

担当：よもぎ、たちみみ、さつまいも、なゆた

よもぎ：こんにちは。梅雨に入りましたね。しもだて美術館では、6月9日、10日にイベントを開催しました。

たちみみ：9日は「おしゃべり音楽会 ミック・イタヤ×溝口肇」。チェリストの溝口肇さんにご出演いただきました。



たちみみ：ナユタさん、ちょうど休みで来てましたねー。

さつまいも：代表曲でもある「世界の車窓から」を含め、5曲を演奏してくださいましたが、どうでしたか？

ナユタ：ゆるやかな低温が心地よくて、暖かい水の中を、たゆたっているみたいで、安眠できそうな気持ちよさでしたー…。

さつまいも：え、寝ちゃったんですか？

ナユタ：いや、寝てないですよ（笑）

よもぎ：「鳥の唄（ガザルス編曲）」の演奏中には、ミック先生即興で絵を描かれました。

ナユタ：その絵は同じく溝口さんの演奏を聴きながら描かれた「太陽天使」の隣に展示しています。是非、御覧くださいね！



たちみみ：翌日の10日は、猪ノ原武史さんによる「桐下駄製作実演」を開催しました。



よもぎ：猪ノ原さんは桐の原木の製材から、桐下駄の製造までまで一貫して行っています。

ナユタ：ミック先生とのコラボ作品、サンダル感覚で履ける下駄は開催中の展覧会で展示していますよ。



さつまいも：鼻緒が可愛いですねえ…ジーンズやスカートにも、あわせられそう…。

たちみみ：材料に使われている桐は、軽くてとても丈夫なんですよー。

よもぎ：それだけではなく、燃えにくくて通気性や防湿性、防虫性にも優れていて、木目が美しいのも魅力です。

ナユタ：その、桐の特性を生かして作られている展示品をもう一つ。結城桐箆筒です。

よもぎ：桐箆筒をそのまま小さくしたような作品が堀江準一さん、シンプルな箱型の作品が 秋山利広さんによるものです。





さつまいも：どちらの作品も、現代の生活様式にあわせて進化していてすごい…。

ナユタ：アクセサリや小物を出し入れするときに、ちょっと特別な気持ちになれそうですね。
たちみみ：長く使って古びてしまっても、削り直しという作業をしていただくと、新品同様によりみがえるのも、桐箆笥のいいところです。

さつまいも：特別な人に送りたいくなる作品ですね…。

よもぎ：只今、開催中のミック・イタヤ展は6月24日まで。どうぞ、お見逃しのないよう！

5月20日イベント開催しました／茨城のうつくしい伝統工芸品3

2018年6月10日(日)

担当：よもぎ、たちみみ、ライム、ペコ

ライム：こんいちは。紫陽花の美しい季節ですね

ペコ：しもだて美術館では只今、「アートのある暮らし展 ART
in LIFE ミック・イタヤの作品
と生き方」を開催しております。

たちみみ：今回も、5月20日のワークショップ「継紙を作る」とあわせて、工芸品をご紹介します。

よもぎ：継紙というのはかな料紙のひとつですが、「かな料紙って何？」とお思いなる方もいらっしゃると思います。

ペコ：私も今回の展覧会で拝見するまで、知らなかったです…。

ライム：書道の経験がある方はご存じでしょうか？かな料紙は書道のかな文字を書くための紙です。



たちみみ：西ノ内和紙とはまた違うんですね？

ライム：同じ和紙ではありますが、かな料紙の材料に主に使われているのは楮ではなく、雁皮という木の皮の繊維です。

よもぎ：雁皮から作った和紙を、さらに植物の染料で染めて、文字がきれいに書きやすくなるように、加工してあるんですよー！

ライム：ワークショップにご参加の皆様に、制作体験していただいた継紙は、いくつかの紙を使って作るものです



たちみみ：思いのままに切ったり破ったりした紙を張りあわせて作る「継紙」、いかがでしたでしょうか？

ペコ：ここでもう一つ、工芸品をご紹介します。壁にかかった3枚のタペストリーの作品から何をイメージしますか？



よもぎ：龍にじっとにらまれてる気がする…

ライム：轟音をたてて流れ落ちる滝？

たちみみ：悠々と泳ぐ大きい鯨かな

ペコ：力強いこれらの作品は、友禅染の工芸士、石山修さんによるものです。

ライム：友禅染というと、下絵を糊で細くなぞったり、染料と細かい筆をたくさん使ったりして、こまかく絵柄を染めていくものなのでは…？

たちみみ：それは桂の雛人形の着物で見ることが出来ますよ。この着物も、石山さんが染めたものです。



よもぎ：ミック先生から「石山さんは豪快で繊細な仕事をするお方だ」とお聞きしましたが、豪快と繊細の両方を垣間見ることが出来ますね。

ペコ：今回は小室久さんの「かな料紙」、石山修さんの「友禅染」をご紹介させていただきました。

たちみみ：おかげさまで、5月のイベントは全て、無事に終了致しました。

よもぎ：次回のブログでは6月のイベントの様子をご紹介します。

12日、13日イベント開催しました／茨城のうつくしい伝統工芸品2

2018年5月31日(木)

担当：だいず、ペコ、ライム、さつまいも

ライム：こんにちは。梅雨の気配がしてきたでしょうか？しもだて美術館では、12・13日とイベントを開催致しました！

さつまいも：12日は「フリートーク ミック・イタヤ×辻徹」。ミック先生と辻さんに展示室を巡りながら、お話を聴かせていただきました。



ペコ：制作話って、なかなか聴けないから、イベントの日ばかりは仕事が憎い.. (泣)

だいず：ですよ..

ライム：だいずさん、13日に来てたじゃないですか！

だいず：ちょうど仕事が休みだったもので…ラッキーでしたー。

さつまいも：うらやましいなあ..

ペコ：13日はワークショップ「漆と漆塗りを学ぶ」。前日に続いて、漆芸家の辻さんか

からお話を伺いました



ライム：漆は耐久性や防水性、防腐性にとっても優れていて、特に茨城の太子町周辺で採れる漆は良質なんですよ

だいず：制作過程がわかるサンプルや、実際に使う道具も拝見しましたが、道具が思いがけない材料で作られていてビックリです。

さつまいも：どんなのがありましたか？

だいず：女性の髪の毛を使った刷毛、シロナガスクジラのひげや、水牛の角でできたへら、猫の毛の筆、クマネズミの背中の中の毛の筆など…色々でした。

だいず：漆の仕事は分業で行われることが多いけど、辻さんは漆の木を植えるところから一貫したお仕事をされていることにも驚きました…。



ライム：一貫したお仕事と言えば、茨城県伝統工芸士の猪ノ原武史さん！
6月10日（日）に桐下駄製作実演でお招きします！

ペコ：関東で唯一、伐採から花緒スゲ仕上げ迄、一貫して製作している方なんですよ

さつまいも：その前日6月9日（土）には「おしゃべり音楽界 ミック・イタヤ×溝口肇」があります

だいず：溝口肇さんといえば「世界の車窓から」のチェロを思い出しますねー。是非、観て、聴きに行きたいです。

ライム：どちらも楽しみですね！

ペコ：「おしゃべり音楽界」は会場が美術館ロビーから展示室へと変更になりました。それと合わせて展覧会入館券も必要になります。ご了承ください。

さつまいも：それではみなさん、お待ちしております

美しい茨城の伝統工芸

2018年5月11日(金)

担当：だいず、どれみ、さつまいも、ナユタ

だいず：こんにちは。しもだて美術館では、GW後半に「ミック・イタヤと缶バッジを作ろう」を開催しました。

どれみ：お楽しみいただけただけでしょうか？ご参加下さった皆様、ありがとうございます！

さつまいも：今回の展覧会では、茨城の伝統工芸品も展示しております。

どれみ：なぜ工芸品がミック先生の展覧会に？と思われるかもしれませんが、ミック先生は工芸品を未来へ伝えていくための活動をされているのです。

だいず：あれ．．．西ノ内和紙だー！



だいず：2014年開催の「茨城伝統工芸会展」で梶山和世先生が、西ノ内和紙から作った「紙布」を展示されていましたよね？

ナユタ：私も覚えていますよー。西ノ内和紙は厚くてとても丈夫なんです！

さつまいも：だからバッグやお財布に加工できるんですよえ

ナユタ：ここで問題です。展示している工芸品で他に2つ、西ノ内和紙が使われているものがあります。さて、どれでしょう？

どれみ：ひとつはもちろん、水府提灯ですよ。

なゆた：正解です。水府提灯は骨組みが頑丈に作られています。張られている、西ノ内和紙は水にも強いので、水府提灯はまさに、鬼に金棒な工芸品です。

だいず：今回、展示しているのは、ミック先生とコラボされた提灯で、中にLEDライトが入っています。

さつまいも：音に反応して光が点いたり消えたり、揺らいだりするのが、ろうソクの炎みたいでホッとします。



さつまいも：2012年には、グッドデザイン賞を受賞されていますよ

だいず：もうひとつは、かな料紙でしょうか？

ナユタ：ハズレです。正解は、桂の雛人形です。



ナユタ：西ノ内和紙が使われているのは雛人形の雛人形の着物の生地裏面です。着物の着くずれ防止や、防虫、除湿の役割をしています

さつまいも：着物のグラデーションが美しいなあ…

どれみ：「かさねの色目」というそうですよ。

だいず：柄も可愛い…。桜とバラと梅かな？

ドレミ：日本と言えば桜、茨城の県花のバラ、水戸の偕楽園の象徴、梅をモチーフ、ミック先生がデザインされています。可愛いですよー…。

さつまいも：この雛人形、和室にも洋室にもなじみそう…凛とした佇まいが素敵です。

ナユタ：今回、ご紹介致しましたのは、菊池大輔さんの「西ノ内和紙」、由元君平さんの「水府提灯」、小佐畑孝雄さんの「桂の雛人形」です。

ドレミ：伝統を大事にしながら進化していく工芸品、是非実物をご覧になってみて下さいね！

ミック・イタヤ展はじまりました！

2018年4月30日(火)

担当：だいず、たちみみ、よもぎ、ナユタ

だいず：こんにちは。新年度がはじまって、ひと月が過ぎました。

たちみみ：夏みたいに暑い日もあって、寒暖差がつらいですねー

よもぎ：どうぞ、体調管理にお気をつけ下さいね

ナユタ：しもだて美術館では只今、「アートのある暮らし展 ART
in LIFE ミック・イタヤの
作品と生き方」を開催中です

よもぎ：お父様の出身地である下館を第二の故郷としているミック先生は、ビジュアルアーティストです

たちみみ：「ビジュアルアーティストって何？」という疑問を持たれた方、実際に展覧会をご覧になると、きっと疑問が解けます。。

ナユタ：絵画、オブジェ、音楽、広告デザイン、ファッション、工芸品…ちょっとした工夫で、暮らしを楽しく豊かにする人…？

だいず：私もそう思いましたー！

たちみみ：是非ご覧になってみて下さいね。

よもぎ：個人的な感想ですが、展示室に入ると、たくさん並んでいる絵に圧倒されます…。

だいず：ミック先生の絵、「線」が力強いですよ！

ナユタ：そうなんです！迷いがなくて、ぶれない芯の強さを感じます！

たちみみ：私は情熱を奥にとじこめたしなやかさ、懐の深さがあるなあ…って思いました。

だいず：まるで太陽のようですねー…

よもぎ：ミック先生の作品に、太陽はよく登場するモチーフでもありますよ



なゆた：5月中にはイベントが4つございます。

だいず：3日～6日は「ミック・イタヤと缶バッジを作ろう」、12日は「フリートーク ミック・イタヤ×辻徹」です！

よもぎ：残りの2つは、ワークショップ 茨城クラフトアートから、13日「漆と漆塗りを学ぶ」、20日「継紙を作る」です。

たちみみ：お気軽にご参加下さいねー！